

令和4年度第4回出島処分場事業連絡調整協議会の概要

1 日時及び会場

- 令和5年3月22日（水）
- 広島港湾振興事務所大会議室（広島市南区宇品海岸二丁目 23-53）

2 出席者

- 14名出席（2名欠席）

3 議事要旨

（1）議事

- 令和4年度第3回出島協議会の概要について
- 廃棄物の受入実績等について
- 台船Ⅰ・Ⅱの入替運転について
- 処分場の維持管理状況等について
- 周辺環境の調査結果について
- 護岸モニタリングに関する学識経験者へのヒアリング結果について
- 出島処分場への埋立土砂の搬入について
- 地域振興策について

（2）回答要旨

【前回協議会の概要について】

（意見なし）

【廃棄物の受入実績等について】

（意見なし）

【台船Ⅰ・台船Ⅱの入替運転について】

（意見なし）

【処分場の維持管理状況等について】

- ・ 水素イオン濃度（pH）が高くなる要因は解明されているのか。
→ 一般的に、焼却灰（燃え殻）・ばいじんの受入量が増えることで、水素イオン濃度（pH）が高くなる傾向にある。出島処分場では、令和4年4月から令和5年2月にかけて、これらを多く受け入れており、水素イオン濃度（pH）に影響を及ぼしたと考えられる。しかしながら、すぐに水質悪化を招くような問題ではなく、硫酸等で中和処理をすることで、問題はないと考えている。
- ・ 中和処理した水は、（放流する際）環境等に影響はないのか。
→ 影響はない。水素イオン濃度（pH）の下水道放流基準は5～9となっており、水処理施設の中で薬品を添加・攪拌させてから、その範囲に収まっていれば下水道に放流する。

【周辺環境の調査結果について】

（意見なし）

【護岸モニタリングに関する学識経験者へのヒアリング結果について】

(意見なし)

【出島処分場への埋立土砂の搬入について】

- ・ 浚渫土の埋立量が8万 m^3 とあるが、浚渫土の受入要請は他にもあるのか。
→ 他に受入要請はない。
- ・ 浚渫土に水を含ませて埋立てるが、8万 m^3 の何割掛けを見込んでいるのか。
→ 8万 m^3 の埋立量は、海底の土砂の地山の量になる。これを掘削する段階で、海水と浚渫土が混ざって解れた状態になるため、投入量は、2倍(15万、16万 m^3)くらいになる見込みである。

【地域振興策について】

(意見なし)

※ 担当事務局
広島県環境県民局産業廃棄物対策課
TEL : 082-513-2964 (ダイヤルイン)